

新潟県 公民館月報

KOMINKAN GEPPU



May 2019
No.795



チューリップの花摘み(燕市)

風の子くらぶ(体験活動支援センター事業)が花絵プロジェクトに参加

4~5

特集

新任職員ガイド

元阿賀野市 中央公民館長 見原 健司

CONTENTS

- 2………… トピックス 「本会組織等について」
- 3………… 視 点 「全国大会の力を地域づくりにも」 新潟県小中学校 PTA 連合会 事務局長 山下あい子
ひろば 「今の世相のなかで」 十日町市北鏡坂 吉田公民館サポーター 太田 玄
掲 示 板 「これからの会議予定」
- 6………… 実践記録シリーズ 「学びアシスト・きらり塾」 出雲崎町中央公民館
- 7………… サークル交流 「バツハ回帰」(佐渡市) / 「楽しく活動しています」(刈羽村)
素 顔 拝 見 佐藤 強平さん(粟島浦村) / 石田 幸子さん(村上市)
- 8………… お元気ですか 「さんちゃん健康体操を一緒に」 三条市・長野 洋子さん
ネットワー ্ক 「地域連携コーディネーター養成スクール開催」

本会組織等について

事務局長 広瀬 松司

新潟県公民館連合会は、創立70周年を迎えました。これまで本会を支えてくださった役員、評議員の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。今年度も各市町村公民館長の異動がありましたので紹介します。

◎新中央公民館長が就任

4月1日から次の方々が新中央公民館長として就任しました。

- 1 上越市 岩野 俊彦
 - 2 柏崎市 高橋 達也
 - 3 佐渡市 金子 雅晃
 - 4 南魚沼市 滝沢 一也
 - 5 長岡市 水島 幸枝
 - 6 魚沼市 森山 正昭
 - 7 田上町 福井 明
 - 8 弥彦村 富田 憲
 - 9 胎内市 佐藤 一孝
 - 10 粟島浦村 佐藤 強平
- 他の20市町村は変更ありません。
- 今年度は、役員改選の年では

ありませんが、平成29・30年度で20名の公民館長が変わりましたので、今後の組織や県大会について平成28年度の評議員会です承された内容について触れておきます。

○会長職の持ち回りについて

会長職は、4地区体制で、2年任期で持ち回ることが了承されました。また、上越地区が構成3地区で、短期間で会長職が廻ってくることから4地区順から1期はずすことも了承されました。

〈会長職順〉

- 上越地区(平成28・29年度)
 - 新潟地区(平成30・31年度)
 - 下越地区(令和2・3年度)
 - 中越地区(令和4・5年度)
 - 新潟地区(令和6・7年度)
 - 下越地区(令和8・9年度)
 - 中越地区(令和10・11年度)
 - 上越地区(令和12・13年度)
- 以降、繰り返し。

○県大会開催地順について
県大会の開催地順についても会長職順の考え方で、次のように了承されました。

〈県大会開催地順〉

- 上越地区(平成28年度) 妙高市
 - 中越地区(平成29年度) 見附市
 - 新潟市(平成30年度) 新潟市
 - 下越地区(令和元年度) 新発田市予定
 - 中越地区(令和2年度) 十日町市予定
 - 新潟市(令和3年度)
 - 下越地区(令和4年度)
 - 上越地区(令和5年度)
 - 中越地区(令和6年度)
 - 新潟市(令和7年度)
 - 下越地区(令和8年度)
- 以降、繰り返し

今年度の第1回評議員会が5月17日(金)に行われます。事業

計画や予算などについて協議する予定です。

また、事業を見直すために、全市町村対象に事業アンケートを実施しました。公民館月報や県公民館大会の今後についても協議する予定です。

第1回評議員会の内容については、月報6月号で紹介いたします。

(広瀬)



「新潟県公民館月報」 毎月15日発行 いつでも申込み受付中

公民館月報 定価1部160円 年間1,920円(いずれも送料含む)

申込先 〒950-2004 新潟市西区平島1301番地 中野プラザ107 新潟県公民館連合会 TEL・FAX025-266-7711



「今の世相のなかで」

十日町市北鑑坂
吉田公民館サポーター
太田 玄



夫婦共稼ぎ、車一人1台、村で集まる機会が少ない、等々で年代が少し違くと顔が分からない、という事は村のコミュニケーションが希薄な時代である。それにも増して凄く少子高齢社会である。私(昭和8年生)が小学校の頃は1クラス60人前後、今は小学校全員で60人を割ってる。

国は3~40年後には8600万人と予想。この少ない子供たちの何割が村に居てくれるか、何処で暮らそうと生まれ育った村を忘れてもらいたくない。

去年、村の小中学生と親を呼んで「芋掘り、焼き芋」をやった。(飯盒・キャンプ・ネタはある)芋が焼けるまで、近くの景色のいい所で村の来し方を、今では全く言い伝えはないが、氾濫する信濃川に2回も村が流されて今の河岸段丘の上にながって、田の用水確保のために、何百年もの苦闘があった事を話した。

学校は国で決まった事を教える。地域、村の事は村の人が話した方がよいだろう。これは公民館事業として計画的にやる事で地域おこしの拠点になるように思っている。自分の体験からすると公民館と博物館で学んだ幾つかは生涯忘れないだろう。中央公民館では当市の近代史とパソコンを、博物館友の会にもこの会ならではの研究グループが幾つもあり、生涯学習という大きな枠で横の連携が出来ないものか、是非、「一考を願いたい。公民館、博物館で行う生涯学習は自分が必要に迫られたものだから大変な難い。私は大変字が下手、パソコンを習ったお陰で人並みの字が書ける。生涯学習は高齢者の健康、生甲斐であるから一律に予算カットは市としても得にならないのではないか。

視点



新潟県小中学校 PTA 連合会
事務局長 山下あい子

「全国大会の力を地域づくりにも」

昨年8月、新潟市小中学校PTA連合会との共催により、57年ぶりに新潟で日本PTA全国研究大会を開催しました。全国からの参加者約7500人から「米百俵の精神」を伝えたいと、「オール新潟」の力を結集しました。共催による大会運営は難しく、今までに成功したのは新潟大会のみです。新潟のPTAや行政の方々の底力や誠実さによるもので、誇らしく思います。ほっとしたのもつかの間で、この4月からの「働き方改革」に伴い、「部活動の在り方」を含め

て、学校や保護者、地域に大きな変化が求められています。かつて週5日制が導入された際に、部活動が欧米のように地域のクラブチームに移行するのではと思いましたが、いよいよでしょうか。勝利を目指すチームだけでなく、地域の伝統文化の継承、ボランティア活動等、子どもと大人が(高齢者も)一緒に、多様な活動ができる環境がほしいと思います。行政や公民館等との強力なタッグで実現できるように取り組んでいきます。

また、地域の課題として最近注目しているのが、子どもの貧困対策としての「子ども食堂」と、高齢者の居場所としての「地域の茶の間」を融合させた取組です。家庭環境の厳しい親子や高齢者が食べたりおしゃべりしたりできる、高齢者が手伝うことで生きがいをもてる、子育ての相談ができる等、多くの効果が認められています。この取組の成功には、場の提供、食材の安定的な供給、まとめるリーダーの養成等、行政や社会教育、福祉関係者の協力が重要です。各地域で、様々な団体や個人の力を結んでコーディネートしていくと、地域が活性化するのはと期待しています。当連合会の役員も、各地域のリーダーとして地域づくりに貢献できるように研修を深めていきたいと思っています。

掲示板 HOT NEWS

● 〇県公連第2回理事会開催
日時 令和元年6月7日(金)13:30~16:00
会場 新潟市中央公民館404講座室
内容 (1)第70回新潟県公民館大会における永年勤続者表彰候補の選考
(2)第70回新潟県公民館大会の準備状況
(3)負担金等の見直しについて
● 〇「にいがた生涯学習県民フォーラム」打ち合わせ開催
今年度の「にいがた生涯学習県民フォーラム」の打ち合

● わせ会が始動しました。
5月の開催は、14日(火)です。当フォーラムは県教育委員会が主催していますが、運営に「県社会教育団体懇話会(社団懇)」(県内の社会教育10団体で構成)が参加しています。県公連も社団懇の構成メンバーとして協力しています。今年のフォーラムは、11月9日(土)、10日(日)に開催予定です。生涯学習を進めるために参考となる講演会や体験活動等が多く企画されるものと期待をしています。

特集

新任職員ガイド



元阿賀野市
中央公民館長

見原 健司

はじめに

令和という新しい元号の幕開けです。これからも公民館という歴史に年輪を重ねて行くことになりま。人もそうですが公民館も一人で大きくなったりわけはありません。支えてくれる地域の方々や先輩たちの不断の努力によって今日があります。そのことも忘れずに、しっかりと根を張りながら新しい時代を創造していきましょう。

住民との信頼関係づくり

公民館職員を語る前に、行政職員として認識すべき点があります。それは民間と違い、職場も地域も思いのほか狭い世界だということです。同じ部署になったことのない職員のことでも、それなりの情報が入ってきますし、逆に自分のことも知られていると思います。市民に県立がんセンターで会計している姿を見られ、「がんになったのでは？」と心配されたこともありま。社会もまた狭いものです。

求められるのは行動のあり方。住民とのコミュニケーションによる信頼関係が大切です。全体の奉仕

者であることを自覚し、明るいあいさつや分け隔てのない接遇など、小さな積み重ねが信頼を築いていくのです。そして、ずっと人間関係は続いていきます。

専門性を磨く

「教育学」の専門家である先生とは違い、公民館職員に専門性は必要ないと思われがちですが、実はそうではありません。住民や社会教育関係団体等とのコミュニケーション力（話すより聴く方に重点）、支援活動、学習課題の把握と企画立案、相談や調整など、職員の力量によって公民館活動が変わるといっても過言ではありません。

私たちは自分が持っている知識以上のことはできないものです。広い視野と探求心を持ち、向上心を忘れずに様々な研修参加を心掛けることが肝要です。積極的に本を読み、実践を積み重ねながら公民館の特性を学んで、専門性と人間力を磨いていきます。

住民にとって公民館は、行政職員とのコミュニケーションが図られる最も身近な存在です。そして職員もまた住民から成長させてもらえる学びの最前線です。

私は、公民館は行政の「末端」ではなく「最先端」と認識しています。

教育は人格完成のために

教育は何のために行うのでしょうか。教育基本法によると、その目的は「人格の完成」です（第一条）。生涯

学習の理念でも「自己の人格を磨き…その成果を適切に生かすことのできる社会の実現…」(第二条)と謳われています。首長部局では決して出てこない概念です。

この教育基本法の精神に則り制定されているのが社会教育法です。つまり人格を磨き、豊かな地域社会を住民の皆さんと創造していくのが社会教育であるといえます。

人を傷つけ罪を犯すための学びは、教育でも生涯学習でもありません。極端な言い方ですが、目指すは「魅力的な人間になろう、魅力的な人がたくさん集まって、魅力あるまちにしよう」ということだと思えます。

地域を興す拠点

公民館を考えたのは日本人で、日本人自らの手でつくられた施設です。敗戦から1年も満たない昭和21年7月5日、「公民館の設置運営について」という文部次官通牒によって全国に公民館の概念が与えられ広がっていきました。荒れ果てた国土・郷土を立て直す原動力として構想されたもので、個人の満足や豊かさだけでなく、地域の振興や地域づくりの拠点としてつくられたのです。

公民館は単なる「集会施設」ではありません。公民館活動（事業）という言葉があるように、「事業施設」であり「教育の機関」として位置づけられています。コミュニケーションとの違いの一つが、公民館の



市民の手作り大イベント「このぼり大作戦」(夢のぼり)

目的を果たしていくために、職員のスキルアップを目指した様々な研修会等が行われることです。

次元の高い「何のために」を考える

恒例の教室や行事を行うときなど、事業をただ消化することだけに思いが馳せ、何のために事業をやるのか、期待することは何なのかを考えなくなることもあります。

ともすると安易に人に頼ったり作業を省略するなど、楽な道を歩もうとする思いに偏っていきます。職員数の減少などで厳しい体制の中、目の前の仕事に忙殺されて余裕がなくなっているのだと思います。しかし、仕事というものは、そこにどんな意義や目的があるのかを考えないと、とてもつまらないものになってしまう。

何のためにその事業を行うのか、根拠を理解し少し次元を高くして考えていくことで、やりがいや意欲が変わっていきます。

※イソップ物語に「3人のレンガ職人」という仕事に対する目的意識を考えさせてくれる話があります。参考にいたしますので、ぜひ調べてみてください。

市民意識を育む環境づくり

あるファーストフード店では、お客様に面倒をさせないため、ゴミを一つのゴミ容器に投棄してもらっていました。店の人は営業時間の終了後、店の裏でゴミを全て出して一つ一つ分別してから廃棄していたのです。ある日、お客様からクレームが入ったのですが、その内容は、お客からしてみれば「ゴミを分別しない行為自体が、反社会的なことをしているような気持になる」というものでした。

もう一つ、道路は誰のものかというと問われると、「みんなのもの」と答える人は多いと思います。それでは、その「みんな」の中には自分が入っているのでしょうか？ 入っているという意識があれば「ゴミのポイ捨てはしません。なぜなら自分の屋敷に「ゴミは捨てないからです」。

市民とは、ただそこに住んでいる一員ということではなく、社会をより良くしていくために、義務と責任を果たそうと行動する人たちのことです。市民活動は一人一人の問題意識が原点にあるといえます。

「住民」から「市民」へ、自治意識や自治能力が育まれる学びと環境を、みんななどのようにしてつくりあげていくのか、「こ」が最も重要なポイントです。

メンターを探せ

30年以上も前、私が公民館職員のととき、やる気スイッチが入った出来事があります。

町を挙げてのクリーン作戦を計画。公民館長が率先してゴミ収集業者と交渉し、町民・企業・行政が一体となって無償の清掃活動が行われました。「館長のお陰でうまくいきました」と言ってく、「俺は口だけ、実際に行動に移したお前たちが大したものだ」と、と逆に褒められたことが今でも忘れられません。立派な理念や計画も実行しなければ無意味なものと同じ…という教

え以上に、そういう目で私たちを見て評価してくれている人がいるのだという、その『ありがたさ』です。

メンター（指導者・支援者）とは、やる気にさせるリーダーです。例えば「あの人に会ったことが、自分の人生を前向きするきっかけとなった」、そんな存在です。メンターは自ら求めてこそ見つかります。

また、仕事を持ちながらも懸命にまちづくりを考え、地域課題に向き合って活動している市民の人たちとの付き合いも大切です。意識の高い集団とかわりを持つことで、お互いを高め合う効果（ピア効果）があります。

無縁社会から絆社会へ

「市民参加のまちづくり」から「協働のまちづくり」へ、そして近年は「絆や信頼を重視した心のまちづくり」へと変遷しています。人々の社会的孤立の問題が源泉となり、福祉や介護・教育などのあらゆる分野や世代で、切実かつ深刻な問題があらわれているのです。これからは、人と人とのつながりを取り戻し、助け合い理解し合いながら心の豊かさを求め、幸せが実感できる社会。そしてやり直しのきく、ゆとりある社会です。

福祉サービスの提供などとは違い、市民と一緒に悩み取り組みながら考える、伴奏型支援の公民館職員の姿が浮んできます。

おわりに

20年後には今ある仕事の職種の47%が無くなっているといい、今年小学校に入った子どもたちの65%が今は存在しない仕事に就いているといわれています。では公民館職員はどうなっているのでしょうか。住民がいる限り課題に向かって頑張っているはずですが、なぜなら公民館は「みんな」のものだからです。

実践記録シリーズ

254

学びアシスト・きらり塾

出雲崎町中央公民館

出雲崎町中央公民館では、平成30年度から青少年育成講座の1つとして、中学生を対象とした『学びアシスト・きらり塾』と小学校高学年を対象とした『出雲崎ツズ レベルアップコース』を開催しています。

ノーマメディアデーからの発展

出雲崎町では、平成26年度より「0のつく日はノーマメディアデー」と定め、テレビやゲーム等に費やす時間を減らし、家族とのふれあいや絆を深める時間を増やすことを働きかけてきました。その一環として積極的にノーマメディアに取り組んでもらうため、公民館では10日、20日、30日に中学生向けに『学びアシスト』も館、小学校高学年向けに『出雲崎ツズ夜間講座』を実施し、勉強や体を動かす様々なレクリエーションを実施していました。

しかし、利用者やその保護者などから、「曜日を固定して開催したほうが参加しやすい」「0のつく日は家族とのだんらんを優先したい」などの意見があり、平成30年度から実施日を水曜日に固定し、内容もグレードアップして開催することになりました。



講座のようす

内容を一新した中学生向けの『きらり塾』は、学習習慣を身につけたい、苦手科目を克服したいといった悩みを解消できるよう、教員OBの遠山昇先生に講師をお願いし、5教科を対象とした自主学習スタイルで実施しています。参加した中学生は、積極的に疑問点を先生に質問するなど真剣な学習態度で臨んでいます。

小学生向けの『出雲崎ツズレベルアップコース』も負けてはいません。子どもたちのコミュニケーション能力やチームワーク、勝負意識を身につけてもらうことを目的としたスポーツ鬼ごっこやコーディネーショントレーニングなど、やらされる受身の運動ではなく、主体性を重視した内容を取り入れています。参加者も回を増すごとに増加しています。



今後の活動予定

子どもたちの遊びや学びを支えるため、多くのスタッフにかかわってもらいながら、今年度も両講座を開催していく予定です。

とりわけ『きらり塾』では、講座での学習の様子や学校の学習進度など、相互に情報交換を行い、きめ細やかな学習指導が実現できています。このように公民館が媒体となって、子どもの成長を学校、地域が見守っていけるような仕組みづくりに取り組んでいきたいです。

出雲崎町中央公民館 小林ひろ子





バッハ回帰

古典音研(ごんおんけん)

私たちが古典音研は、佐渡市小木地区で公民館活動する弦楽アンサンブルです。弦楽座という名でも活動しています。毎週金曜の夜、小木地区公民館で練習をします。現在のメンバーは約10名。息子にバイオリンを教えるために参加したお母さんが夢中になり、今や自分の楽しみになっている人もいます。私たちは、毎週の練習そのものが楽しみなのです。機会があればどこかで演奏もしますが、楽器を弾くことは本当に楽しい。

佐渡にはオーケストラを結成するだけの弦楽器人口がありませんから、室内楽をやっています。曲目はあらゆるジャンルから私たちのレベルに合ったものを探してきます。その中でもやはり大切なのはバッハなのです。バッハの曲は、演奏者にやさしく



微笑みかけてくれます。無理な運指やフレーズがなくごく自然で、ゆっくり弾いても曲が出来る上があります。

毎年春には団内発表会を開催します。今年はオールバッハプログラムです。2つのバイオリンのための協奏曲、インヴェンション、無伴奏チェロ組曲。曲名を並べるだけでワクワクしますね。

佐渡市・古典音研
中務 浩 記

楽しく活動しています

恵寿美大学 手芸クラブ

高齢者の健康と学習を目的とした恵寿美大学が、昭和55年4月1日に誕生しました。

毎月1回つづの講義会とクラブ活動があります。クラブは書道、生花、手芸、俳句、ペタンク、かがやき(カラオケ、健康体操等)、カラオケ、手芸の8団体。

私たちは手芸クラブに所属しています。ご指導いただく先生を中心に7名で活動しています。カギ針での編物が主体ですが、布で手さげ、余り糸での小物入れ、切れ端で小銭入れになるマカロンを作ったりで、毎年11月に開催される刈羽村文化祭会場・刈羽村生涯学習センターラピカ(こ)では展示作品は色とりどりでしました。また、棒針での帽子やネットワークオーマー等何でも挑戦し、出来上がった時の達成感、格別で仲間の完成品を拝見し、時には試着したりで、時間がアツという間に過ぎてしまします。今後も各人それぞれのペースで楽しみながらクラブ活動を続けたいと思います。



刈羽村・恵寿美大学 手芸クラブ
代表 渡辺 和子 記

素顔拝見

粟島浦村教育委員会
教育長 佐藤 強平さん



4月から粟島浦村に新しくいらした佐藤強平教育長は、その強そうなお名前とはうらはらに、人当たりが柔らかく、穏やかな表情、温かみのある声をお持ちの方です。

誰に対しても誠実に丁寧に接し、子どもたちにも積極的に声を掛けて楽しそうに会話をしているお姿はとても微笑ましいです。

温和な人柄の内にも、教育に対して熱い心をお持ちの佐藤強平教育長なら、その名の通り粟島浦村の子どもたちを力強く導いてくれると思います。

粟島浦村は島開きも終わり、本格的な観光シーズンに突入です。豊富な自然の中で子どもたちがたくさんの思い出を残せるように一緒に頑張っていきたいです。

(粟島浦村教育委員会 事務員 辻川加奈子 記)

村上地区公民館
社会教育指導員 石田 幸子さん



村上地区公民館に社会教育指導員として勤務し、6年目になります。わくわくキッズクラブ(放課後子ども教室)、とも育ち講座(子育て支援・家庭教育)を主に担当しています。

地区公民館では、5小学校区で放課後子ども教室を開設しています。石田指導員は、コーディネーターや支援員(子どもたちに様々な活動を指導・支援して下さる方)と頻りに打合せを行ったり、学校と密に連絡を取ったりしながら、子ども教室の活動充実に向け尽力しています。随所に石田指導員の細やかな配慮がうかがえ、特に、コーディネーターの相談にはいけないに対応しており、頼られています。

とも育ち講座は、乳幼児の子どもを持つ親を対象とし、親子の関わりや子育てについて学び、保護者同士の交流を図る講座です。子育て支援団体の方々ときめ細かな打合せを行ったり、参加者に対してあたたかな言葉掛けを行ったりしながら、支援・協力して下さる方や参加者に喜んでいただける講座にしようと頑張っています。

石田指導員の笑顔を絶えない、優しい語り口は、事務室をあたたかな雰囲気にしてれています。

(村上地区公民館長 板垣 和伸 記)

ネットワーク

お元気ですか

「さんちゃん健康体操を一緒に」

長野 洋子 (三条市)



「さんちゃん健康体操ってなに？」と思われるかもしれませんが、平成21年度、三条市が山田拓実教授(首都大学東京健康福祉学部理学療法学科)に制作依頼したオリジナルの体操です。

平成22年度から地区公民館を拠点に「うきうき会」という名称でさんちゃん健康サークルとして、生涯学習課から認定されました。体操のほかに栄養・口腔講座、認知症予防のためのレクリエーション、そして、健康に関することはどんなことでも話題にして、みんなで話し合い、実践してみることがモットーにして

「さんちゃん健康体操ってなきました。だから、現在も継続できているのかなと思います。その後、平成23年10月には地元ケーブルテレビ及びNHKの「新潟ニュース610」で、うきうき会の活動状況が放映され、地元の方々はもちろん、県内各地の友人、知人から「見たよ、元気でやっているね」「私も頑張らなくちあえ」等々、そのことによって会のメンバーがうきうきと気持ちが沸き立ったように感じました。

このうきうきと沸き立つような気持ちを感ずることを取り入れるが今後の課題かなと思います

※「お元気ですかのコーナー」は現役をリタイアした方がその後も元気に活動している様子を紹介するコーナーです。

すが、会員の減少に歯止めをかけるのはなかなか難しいです。しかし、一人ひとりが介護保険制度を初めとする社会福祉制度の改革にアンテナを立てて、その内容にまで踏み込んで学ぶことが大切ではないかと。いくら元気な高齢者といっても、日本の若い世代、いや外国の若い人たちにもお世話になるかもしれないと思うと、私たちは健康に留意しつつも、うかうかしていられません。会員の中には90歳代のメンバーも数人おられ、その方々を目標に日々頑張っていきたいと思えます。

最後にいつもお世話になっている公民館の皆さんのサポートに感謝します。

地域連携

コーディネーター養成スクール開催

「コミュニティ・スクール」「地域創生」「少子高齢社会」

このワードに興味・関心がある方は、ぜひ受講してください。

期日・会場

6月5日(水)、6月27日

(木)、9月10日(火)・上越地域振興局

6月6日(木)、7月4日(木)、9月11日(水)・県立生涯学習推進センター

講師 NPO法人みらいず Work代表理事 小見まいこ氏

・東京大学大学院 教授 牧野 篤氏

参加費無料

申し込み切 5月30日

お問い合わせ・申込み

県立生涯学習推進センター 担当 五十嵐和彦 025-284-6110

・国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部 統括研究員 志々田まなみ氏

土砂災害防止月間

～みんなで防ごう土砂災害～

6月は「土砂災害防止月間」です。

土砂災害から人命・財産を守るため、土砂災害に関する防災知識の普及、警戒避難体制の整備を推進するための取組みに協力しています。

新潟県治水砂防協会

会長(出雲崎町長) 小林 則 幸

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内

TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609

編集後記

5月は諸会議や研修が目白押しです。会計監査、県公連理事会、評議員会、中・下越公連評議員会、役員会等が予定されています。第70回県公民館大会も新

発田市を中心に下公連の組織の下で実行委員会も始動しています。5月末に開催要項が各市町村に送付される予定です。多数の方の参加申し込みを期待しています。(広瀬)